

基本計画 - 施策の体系について -

将来目標

SDGsの実現を見据えた本町のあるべき姿

将来目標実現のための基本方針

施策の大綱

説明

施策テーマ

〜人・地域・地球の健康を守り縁をつなぐ開かれたまち・能勢〜
おおさかのてっぺんから発信 里山未来都市

＜経済＞
エネルギー・資金・経済・情報が循環するまち
里山資源の魅力を活かすまち

＜社会＞
ひとびとがいきいきと暮らす健康長寿のまち
移動の自由を楽しむまち

＜環境＞
エネルギーを自律的に管理するゼロカーボントウン
グリーンレジリエンスを活かした災害に強いまち

＜分野横断＞
ひとがつながり、協力し合うまち

「能勢」への思いをつなぎ、次世代へアップデートする仕組みづくり

「里山の学び」をライフステージに合わせて多様に提供

「関係人口」と「能勢」を継続的につなぐ体制づくり

人材育成・サイクル

ウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）

地域経済のリデザイン

脱炭素化・レジリエンス

自治体経営における資源配分の効率化

- 多様なステークホルダーと連携協働し、地域資源を活かして持続可能な社会の創り手をはぐくむ先進的かつ実践的な学びの機会を創出します。また、いったん能勢町を離れても再び戻ってきたいと思える町、地域に心の根を張る人材育成に取り組みます。
- 関係人口と能勢町を継続的につなぐ体制づくりに取り組みます。

- ライフステージに応じた健康づくり（「運動」「栄養」「社会参加」）の支援を通じて健康寿命を延伸し、住民一人ひとりの豊かな暮らしの実現を目指します。
- 多様性の尊重やコミュニティのつながりづくり、また子育てや福祉、自然環境等のまちづくり分野を含めて住民主体の観点に立った総合的な健康づくりの取組を推進します。

- 観光、農業、製造業など、地域の特性を活かして域外から稼ぐとともに、域外から稼いだ資金を地域発のイノベーションや地域企業への投資につなげる等、効果的に域外から稼ぎ、効率的に域内で富を循環させる地域経済の構築を目指します。
- 多様化する価値観やライフスタイル・ワークスタイルを踏まえ、誰もがその力を発揮できる就業環境や自分の居場所を見出せる環境づくりを通じて、しごとの場であり生活の場である地域全体の魅力を高める取組を推進します。

- 2050年までにゼロカーボントウンを目指します。2050年以降にはさらに一歩踏み込んで、CO2吸収タウンを目指します。
- 住民の誰もが里山資源の使いかたを理解し、災害時には里山資源を用いて、ライフライン等の被害からいち早く回復できるグリーンレジリエンスを活かした災害に強いまちを目指します。
- エネルギーマネジメントや食料自給率の向上など地域資源を活かした自立分散型のまちづくりを推進します。

- 持続可能な行政サービスを提供するための必要な経営資源を確保するために、行財政運営の見える化や地方公共団体の連携・協力等による地域の枠を越えた連携、地域の共助組織との連携、民間サービスの活用等による組織の枠を越えた連携、行政のデジタル化等による技術を活かした対応など、新しい日常をけん引する効率的な自治体経営を行います。

- ◆ シビックプライドを醸成する教育の実施
- ◆ 教育環境の充実
- ◆ 高等学校との連携など協働的な学びの実現
- ◆ 関係人口の創出と移住・定住の促進
- ◆ 能勢魅力の継承と創造

- ◆ 安心して子育てができる切れ目のない支援
- ◆ 社会全体で子ども・若者の成長を支える環境づくり
- ◆ 地域医療体制の充実
- ◆ 高齢者福祉の充実
- ◆ 障がい者福祉の充実
- ◆ 健康寿命の延伸
- ◆ 生涯活躍できる社会の実現
- ◆ 人権・平和の尊重
- ◆ 魅力的な集落生活圏の形成

- ◆ “おおさかのてっぺん” 広報プロモーションの推進
- ◆ 観光地域づくりの推進
- ◆ 農業・農村資源の高付加価値化
- ◆ 産業の活性化と地域発イノベーションの推進
- ◆ 道路・交通環境の整備
- ◆ 新しい交通システムへの挑戦
- ◆ 時代に合った地域の魅力を引き出す土地利用

- ◆ 生物多様性の保全
- ◆ 里山資源の魅力化
- ◆ 森林資源の保全と活用
- ◆ ゼロカーボントウンの実現
- ◆ 災害に対する復元力・回復力の向上

- ◆ 遊休資産・公共施設の有効活用
- ◆ 情報通信技術の利活用の研究
- ◆ 自立した地域づくりの推進